

# FADO

47

Julho 2005

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

月田秀子の昨日、今日、明日…

## 一喝の効き目

「うるさい！」低くはあるが、鋭い一声でもって、ざわついた会場の空気は、一転、静まり返った。大船の「パラッツォ・ヴィオラ」でのライブ、休憩後、二回目のステージが始まり、ギター演奏中のことだった。休憩時に観客の喉を潤したアルコールが程よく廻り、それにつれて、いつのまにか、ギター演奏は、聴衆のBGMになりはてしてしまった矢先のことだった。

アルコールが進むに連れて、会場が騒然となることはよくあることだ。何もかしまって聴いてほしいわけではない。ライブの聴衆は、そのライブを構成する一員でもあることも事実だ。「すいません。演奏中は声を落としていただけますか？」たまりかねてそう言うこともある。それも焼け石に水のこともある。静まり返った会場の中で、ひそひそ話がやけに耳障りなこともある。こっちがいきり立って、大きな声で歌い出すと、さらに、話し声が大きくなる。そういう時は、極力声を落として歌うに限る。お話の邪魔をしては悪いかと思ひ、ギターのイントロが終わっても、歌いださないことも

ある。総じて、そのあたりで、会場は静かになるのだが……。そうでないこともままある。一所懸命に聴いてくださっている人のことを思うと、それで引き下がることはできない。

「Silencio!」やにわにポルトガル語で怒鳴ったこともある。

「うるさい！」大切に私たちの演奏を聴いてくださっている人のその一言は、天の声のように響き渡り、心の中で「ありがとう」と叫んだ。

ライブ終了後のCDのサイン会の時に、「その人」は、こうおっしゃって帰られた。「音楽には、じっと静かに耳を傾ける音楽と、リズムに乗り、楽しく聴く音楽があると思うんだ。ファドは、前者の音楽と私は心得ている」。世界中を旅して、さまざまな音楽を聴いてこられたという人の、素晴らしい一言に出会った夜でした。

ちなみに、ポルトガルのファドのお店では、食事中でも、ファドが始まると、ナイフ、フォークも置いて、聴き入る人の姿を多々見てきました。そうしなければいけないわけでもなく、ただ、切々とした歌声を聴きながら食事をするのはかなり無理なことなのです。泣きながらものを食べられないと同じことかもしれません。



## 「ダリダ」の半生のドキュメンタリービデオを観て、思ったこと

空梅雨の蒸し暑い昼下がり、きうびい嬢が入手した貴重なビデオを観せてもらった。

「ダリダ」って、一体誰だ？と、言われそうなので、そんなに簡単に紹介しきれものではないのですが、ご存知ない方のために、きうびい嬢のホームページから引用させていただきます。

『ダリダはフランスで戦後最も売れた歌手の一人であり、国内でダイヤモンドディスクを初めて取得し、フランスで最初にディスコミュージックを流行らせた歌手です。また、歌って踊るショー形式の大規模なコンサートを行った国内初めての女性歌手でもあります。』

1933年1月17日、エジプトのカイロでイタリア移民の子として生まれ、1954年「ミスエジプト」の栄冠を勝ち取り、映画女優を夢見てパリへ。彼女のレコードデビュー曲は、アマリア・ロドリゲスの歌った「暗いはしけ」のフランス語版「マドンナ」。それ以降、華々しいショービジネスの世界で、活躍しつづけます。1987年、「許してください。人生はつらすぎる」という一言を残して、自らの命を絶つまで。

人を虜にしてやまない美貌、声、音楽的な才能、有能なプロデューサー、ショービジネスに不可欠なものには恵まれた反面、常にアイドルであり続けることの苦しさ、そのために失わざるを得ないもの、ひと。たくさんの犠牲の上に、彼女の栄光はあった。

そのドキュメンタリービデオを観終えて、一番に思ったこと。「スターでなくて、よかった」

それは、アマリアの自伝を読んでも、デートリッヒの伝記を読んでも、マリア・カラスの伝記を読んでも、美空ひばりの特集番組を観ても、思うことである。

「背伸びせず、あるがままの自分の心を大切に、私の歌を楽しみに聴いてくれる人のいる限り、歌ってゆきたい」。そんな思いを新たにしたい。それは、マイノリティーだからこそできること。そして、それがゆえの、少ないギャラにもかかわらず、私を支えてくれているギタリスト、中でも、ファドを音楽的に誰よりも理解してくれているポルトガルギターの上川さん、ありがとう。そして、無報酬で、時には、自腹を切つてまで、私のライブ、コンサートを企画してくださる各地のファンのみなさん、ありがとう。

大きな声でこの梅雨空に向かって叫びたい月田です。

昨年末にリスボンで出版されたManuel Halpern著「O FUTURO DA SAUDADE (サウダーデの未来)」—O NOVO FADO E OS NOVOS FADISTAS (新しいファド、そして新しいファディスタ)—より、月田秀子に関するページを、日置圭一氏のご厚意により翻訳していただきました。

サウダーデ  
「SAUDADEの未来」

新しいファド、そして新しいファディスタ

月田 秀子

“日本語で歌われるファドもまたファド”

「ありがとう」と言う日本語の語源がポルトガル語であるという仮説がある。更に、日本に鉄砲をもたらしたのがポルトガル人であったことは学校の歴史で学ぶ史実である。しかし、日出国「日本」とポルトガルの共通点を見出そうと試みても、簡単に見つかるものではない。

武術映画、アニメ、ソニー、ポケモン、たまごっちなどを生み出す、豊かな日本の文化は、我々にとってはるか彼方のものに見えるだけでなく、時には理解不可能なものにさえ思えてしまう。

日本の音楽に関する情報は、ほとんどと言っていいほどポルトガルには届かない。日本の伝統的な音楽が西洋音楽と異なる音階を使用していることは一般的に知られており、散発的に坂本竜一、ピチカートファイブやオノ・ヨーコの名が挙げられる程度でしかない。しかしながら、日本は常に新たな驚きをもたらしてくれる「不思議」に満ちた国である。

日本人は洗練されたテイストを持つことで有名であり、ワールドミュージックに興味を持つかなり大きな支持層も日本には存在する。さらに、ポルトガルの歴史の一端を知っている日本人に遭遇するのもそれほど珍しいことではない。多くの米国人とは違い、ポルトガルが地球上のどこに位置しているかだけでも知ってくれている日本人は多い。

日本人の西洋的なものへの関心は非常に高いと言える。ビートルズが初来日した時のヒステリー状態はその一例であり、現在五十名以上もの日本人シャンソン歌手がいることからこのことは明らかである。ある種のそっくりさんの大量発生であり、プレスリーを真似る人々の数は数知れない。

音楽の面でも、ポルトガルは日本で認知されていると言える。

アマリア・ロドリゲスは来日した際には常に温かく歓迎され、マドレデウスとミージアがポルトガル以外で初めてヒットした国も日本である。ファドに親しむ人も多く、ファドをレパートリーに持つ歌手も少なくない。

若手の松田美緒は2003年よりポルトガルに住み込んで

ファドやモルナを歌っており、香川有美は日本語でブルース、シャンソン、そしてファドなどを歌っている。しかし、数ある歌手の中でも特筆すべき存在が月田秀子である。歌唱力も際立っているが、何よりも彼女は全身全霊でファドに取り組んでいるのである。

ファディスタとして月田秀子は既に一定の成功を収めており、外国人ファディスタとしてはパイオニア的存在だとも言える。月田自身、ファドの女神（ディーヴァ）であるアマリア・ロドリゲスの再現を追い求めているのかもしれない。

一時期女優として活動した後、月田秀子はシャンソンの歌手手としてミュージシャンのキャリアを開始する。1980年代に入ってアマリア・ロドリゲスが歌う「黒い船」と出会い、それを機に心はネオン輝く街からテージュ河口の街へと移って行く。1987年の一年間をリスボンで過ごすほどファドの虜となり、ポルトガルの文化とファドを学んだ。アマリア本人に会う機会も得、ポルトガルで数々のファドショーにも出演した。

日本に戻った後も、まさに全身全霊をかけてファドに取り組み、1990年には初めてのCDとなる「Saudade」をリリースし、同じ年にカルロス・パレーデスと共に東京でコンサートを開催する。その後、「ジャンジャンライブ」(93)、「Fado Menor」(96)、「Fado」(97)、「Obrigada Amália」(00)、「Saudade de Guitarra」(03)をリリースしている。

これらCDや全国各地で開催するコンサートの中で、月田はABANDONO（置き去り）、QUE DEUS ME PERDOE（神よ許し給え）や、TROVA DO VENTO QUE PASSA（吹き行く風のバラード）などアマリアの持ち歌を始め、伝統的なファドを歌っている。

当然のことだが、CDは一人では製作出来ないものである。月田秀子は、ギターの野上Keizoやポルトガルギターの池側Tadashiなどの強力なパートナーを得て音楽活動を展開している。この二人のミュージシャンは、最初は独学でファドを学び始め、後にリスボンへ赴いてアントニオ・シャイーニョに師事した。

1993年、月田秀子は自分のファド倶楽部を立ち上げた。現在600名程の会員を持つまでに発展しているこの「月田秀子ファド倶楽部」は、差し詰め日本におけるポルトガル文化のサンクチュアリーとしての機能を果たしているのであろう。



著者 マヌエル・アルペン氏と(2005.2撮影)



● 4月4日の渋谷「マヌエル」では、より魅了されました。満足した時間と空間でした。おっしゃっていた通り、帰ってまいりましたら、会報が届いており、じっくり読み進んで、編集後記！！いつもいつも暮らしの中でつきまとう「？」マークのことがそこには書かれてありました。不条理や不合理、不平等のはざままで、コインの裏表のような感情をもてあましながらの自己の葛藤に、今また、自分の子供たちが立ち向かっております。先日は、あなたのライブに、娘を連れて行って、われながらいいことをしたと思っています。東北の遅ればせの春、ふきのとうを蒸しケーキやおだんごに練りこんで香りや苦味を楽しんでいます。先日は本当にありがとうございました。また、いつの日か。

(秋田/佐藤みつこ)

(思いもかけず、その後6月の渋谷「マヌエル」のライブにお越しいただいたご同郷の芳賀女史が、火付け人になって、9月9日、秋田でライブができる運びになったことを、心から喜んでます。「切なる想いは遂げられる」そう確信しています。 月田)

● ありがとうございます。ご配慮いただいた上に、バックナンバーをたくさん送っていただき本当にありがとうございました。CDから流れてくるファドの世界に自

分のひとときが関われることを嬉しく思います。コンサートでは同じ感じを持つ人たちと不思議な空間にいた気がしております。

(神戸/H・S子)

(こちらこそ、神戸「あいり」のコンサートを聴きに来てくださってありがとうございました。生音で歌うにはちょっとしんどい処ではありますが、皆さんが一所懸命聴いてくださることが何よりも力を与えてくれます。 月田)

● 秀子さん、先日は静岡にてお世話になりました。久しぶりに会うことができ、また、楽しい時間を一緒に過ごせて良かったです。コンサートだけだと、歌い手月田秀子に返信した秀子さんとはしか会えませんが、ステージを離れた秀子さんも、また魅力的です。ヘンに売れてしまって、遠くに行ってしまうのが怖い秀子ファンというのが多いように思えます。秀子さんからすれば、生活の心配がなくなる程度にもう少し売れないと辛いなあって感じかもしれません。理想的なのは、月に15回くらいの定期的東京や小都市での身近なコンサートと年に二回くらいのそれなりの規模のステージってところでしょうか。当日の顛末記、同封します。ではまた。再見！

(静岡/小嶋良之)



## 『香港・マカオナイト in 静岡』顛末記

小嶋良之

4月13日、静岡で「香港・マカオナイト」が開催されました。前半は、香港ナイト。カンフーを応用した香港の獅子舞「ライオンダンス」。なかなかユーモラスで面白いショーでした。最後は、会場に爆竹と花吹雪、そして、縁起が良いというレタス？が舞いました。

15分ほど休憩の後、マカオナイトが始まりました。簡単な担当者の挨拶とマカオの紹介の後、一転して会場は、ライトが消え、雰囲気のあるポルトガル調の建物のスライドが映し出されました。2名のギタリストの演奏に続いて、イントロが流れ、いつもどおりの黒いドレスを纏って、わが月田秀子嬢が舞台袖から颯爽と登場。

昼間、控え室で満開の桜を見ながら塩豆を肴に赤ワインを一本平らげて、ほどよく出来上がった秀子さんの声が、会場一杯に響き渡りました。マカオのPRのMCも入れながらのコンサートは、それはそれで単独のコンサートとはまた一味違った味わいのあるものでした。会場の大きさも100名程度の箱だったので、ところどころでマイクをはずして歌う秀子さんの生の声が反響して素敵なコンサートでした。

かく言う私・小嶋が最初に聴いたコンサートが十数年前のマイクなしの野外でのコンサート。秀子さんの声が響くと蛙が沈黙し、歌を終えると蛙の合唱というなかなか味わいのあるものでした。そんなことを思い出しながら、マイクを通さずに伝わってくる秀子さんの情熱や想いを受け取っ

ていました。舞台の上では、自分の声や音響のバランスが聴き取れないらしく、何度か微調整したり、ミキサーさんにサインを送ったりしながら、悪戦苦闘していたようでしたが、聴いているほうは、さほど違和感なく、また、座っている席が前から二番目で、秀子さんから5メートルも離れていない場所だったこともあって、ポルトガルの酒場の感じで聴くことができ、大満足でした。

バックに次々と映し出されるマカオにあるポルトガル調の街並みと、秀子さんのファドがほどよくマッチしていました。映像と並立したり、重なったりして、良い雰囲気が醸し出されて、ファドがじわじわと沁みしてくる感じでした。

コンサート終了後、ホテル近くの地元の小さな居酒屋へ、集まった仲間と飲みに行きました。その飲み屋のオヤジさんのパフォーマンスに秀子さんは大喜び。次から次へと出てくる串焼きの完成度の高さにも歓声をあげながら、ビールや焼酎を飲み干していた秀子さんでありました。終電も近づいてきて、飲み会は解散となりましたが、ようやくボルテージが上がってきた秀子さんは、皆と別れたあと、ショットバーを求めて酒場街に、再び姿を消したのでした。

(いかにも酒好きのように見えるじゃございませんか、小嶋殿。それでも、かなり弱くなり、可愛いものです最近は。知らない夜の街は、旅人にとって、たまらなく魅力的なのです。また、いつの日か、静岡でライブしたいものです。熟れても売れなくてくさっている歌手より)

# informação

## ●年末恒例のコンサート決定！

昨年は、開催できなかった年末恒例のコンサート、今年は、東京、大阪で開催することになりました。

11月13日（日）東京・千石「三百人劇場」

12月19日（月）大阪・梅新「フェニックスホール」

チラシが出来上がり次第、ご案内をお送りします。

●月刊誌「健流 なび」創刊号のmusicコーナーに、月田が載っています。お目とおしくください。音楽評論家の小嶋智氏の文章が、短いながらも、かなりファド、月田の本質に迫っています。

# fados canções

## FADO PORTUGUÊS

Poema: José Régio

Musica: Alain Oulman

O fado nasceu um dia  
Quando o vento mal bulia  
E o céu o mar prolongava,  
Na amurada dum veleiro,  
No peito dum marinheiro  
Que estando triste, cantava  
Que estando triste cantava.

Ai, que lindeza tamanha,  
Meu chão, meu monte, meu vale  
De folhas, flores, frutas de ouro!  
Vê se vês terras de Espanha,  
Areias de Portugal,  
Olhar ceguinho de choro.

Na boca dum marinheiro  
Do frágil barco veleiro,  
Morrendo, a canção magoada  
Diz o pungir dos desejos  
Do lábio a queimar de beijos:  
Que beija o ar e mais nada  
Que beija o ar e mais nada.

Mãe, adeus! Adeus, Maria!  
Guarda bem no teu sentido  
Que aqui te faço uma jura,  
Que eu te levo à sacristia,  
Ou foi Deus que foi servido  
Dai-me no mar sepultura!

Ora eis que embora outro dia,  
Quando o vento nem bulia  
E o céu o mar prolongava,  
À proa de outro veleiro,  
Velava outro marinheiro  
Que estando triste e cantava  
Que estando triste e cantava.

## ポルトガルのファド

訳詞：カウド・ヴェルデ

ファドはある日生まれた  
帆が孕むほどの風もなく  
空も海も果てしなく広がるとき  
ある帆船の波よけにいる  
一人の船乗りの胸の中に生まれた  
悲しみのあまり歌ったのだ  
悲しみのあまり歌ったのだ

ああ はかり知れない美しさ  
緑あふれ 花は咲き、黄金の果実のなる  
我が故郷、山よ、谷よ  
スペインの大地が映らぬものか  
ポルトガルの砂浜が見えぬものか  
涙でかすんで見えない目に

なすすべもない船の上  
死にゆく船乗りの口から  
悲嘆にくれる歌が洩れる  
つぶやくのは身を刺す思い  
この唇で燃えるような口づけを  
けれど むなしく求めるだけ  
口づけるものは何もない

母さん さようなら さようならマリア  
しっかり聞きとどめてくれ  
僕は今 ここで誓う  
お前と結婚することを  
僕に死の海をお与えになるのは  
他ならぬ神の思し召しだったとしても

そして又ある日  
風がそよとも吹かず  
空も海も果てしなく広がるとき  
とある別の帆船の舳先で  
寝ずの番をする船乗りが  
悲しみのあまり歌っていた  
悲しみのあまり歌っていた

## <編集後記>

東京で見損ねた「ゴッホ展」を大阪で観た。東京ほどではないが、平日でもかなり混雑していた。ゴッホグッズがまた商魂たくましくずらりと並ぶ。あの世で、この盛況ぶりを見たゴッホは、どう思うだろうか？もう一度自殺など考えないだろうか？人は二度も死ねないか。心新たに生きることではできるけど。東京での三代目のギタリストに、希望を託しつつ、年末のコンサートは正念場だ。

何とか乗り切って、来年には新CDを出したいと思う。愛想つかさず、よろしくご声援くださいますよう。 月田

## 月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第47号
- 2005年7月1日発行（季刊：年4回発行）
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806



## ＜月田秀子のスケジュール＞

7月11日(月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18：00 ライブ：20：30～(約1時間)	予約・問合せ：tel / 03-5738-0125 料金：6,000円(ディナー・ライブチャージ込み)
12日(火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432
13日(水)	「NOITE DE SAUDADE Vol.23」 開場：18：00 ステージ：①20：30 ②21：30 ③22：30 (各ステージ20分・入替なし)	ライブチャージ：2,500円
27日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20：00 ②21：00 ③22：00	予約・問合せ：tel / 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
28日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20：00から3回(入れ替えなし)	予約・問合せ：tel / 06-6212-2870 チャージ：2,800円
29日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20：00 ②21：00	予約・問合せ：tel / 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)
30日(土)	大阪・和泉市「月田秀子トーク&ライブコンサート」 会場：和泉市コミュニティーセンター3階多目的ホール 開場：13：00 開演：13：30	問合せ：tel / 0725-44-2472(村山紀子) 参加費：1,200円(当日1,500円)
8月8日(月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18：00 ライブ：20：30～(約1時間)	予約・問合せ：tel / 03-5738-0125 料金：6,000円(ディナー・ライブチャージ込み)
9日(火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432
10日(水)	「NOITE DE SAUDADE Vol.24」 開場：18：00 ステージ：①20：30 ②21：30 ③22：30 (各ステージ20分・入替なし)	ライブチャージ：2,500円
24日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20：00 ②21：00 ③22：00	予約・問合せ：tel / 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
25日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20：00から3回(入れ替えなし)	予約・問合せ：tel / 06-6212-2870 チャージ：2,800円
26日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20：00 ②21：00	予約・問合せ：tel / 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)
27日(土)	神戸・三宮「あいり」 *要予約 開場：18：00 開演：19：00	予約・問合せ：tel / 078-241-1898 料金：5,000円(料理・ドリンク付)
9月3日(土)	山梨・河口湖「アルカンシェール」 *要予約 パーティ&コンサート パーティ開始：18：00 開演：19：00	予約・問合せ：tel / 0555-76-6662 fax / 0555-76-6682 料金：7,000円(当日7,500円)
<small>♪当日ご宿泊の方はプラス7500円(夜食・朝食付)です。パーティでは、肉・魚・砂糖・化学調味料を使わず自然の素材をゆっくりとてをかけて調理したマクロビオティックのお料理の数々をお楽しみいただけます。ポルトガルワインもご用意しています。</small>		
5日(月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18：00 ライブ：20：30～(約1時間)	予約・問合せ：tel / 03-5738-0125 料金：6,000円(ディナー・ライブチャージ込み)
6日(火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432
7日(水)	「NOITE DE SAUDADE Vol.25」 開場：18：00 ステージ：①20：30 ②21：30 ③22：30 (各ステージ20分・入替なし)	ライブチャージ：2,500円
8日(木)	仙台「五木寛之・百寺巡礼論案会」	詳細未定・第三部の音楽ゲストとして出演します。
9日(金)	秋田「キャット・ウォーク」 開場：18：00 開演：18：30	予約・問合せ：tel / 018-865-6699 チケット：前売り3,500円 当日4,000円
28日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20：00 ②21：00 ③22：00	予約・問合せ：tel / 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
29日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20：00から3回(入れ替えなし)	予約・問合せ：tel / 06-6212-2870 チャージ：2,800円
30日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20：00 ②21：00	予約・問合せ：tel / 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)
10月1日(土)	大阪・老松町「チルコロ」	問合せ：tel / 06-6365-6758
3日(月)	東京・紀伊国屋ホール「石橋幸コンサート—僕の呼ぶ声」	ゲスト出演
4日(火)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel / 03-5276-2432
5日(水)	「NOITE DE SAUDADE Vol.26」 開場：18：00 ステージ：①20：30 ②21：30 ③22：30 (各ステージ20分・入替なし)	ライブチャージ：2,500円
8日(土)	長野・茅野「茅野市民ホール」	問合せ：tel / 0266-73-4116(伊藤)
9日(日)	愛知・春日井「ファドコンサート」	問合せ：tel / 0568-84-5989(小原)